

令和 5 年度第 2 回全国健康保険協会徳島支部評議会議事録

○日時：令和 5 年 10 月 24 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分

○場所：全国健康保険協会 5 階会議室

○出席評議員（五十音順 敬称略）

井内評議員、牛田評議員、小笠評議員、孝志評議員、中内評議員、平井評議員
古谷評議員

○議事次第

1. 令和 6 年度保険料率について
2. 令和 6 年度支部事業計画及び支部保険者機能強化予算についての意見交換

○議事内容要旨

1. 令和 6 年度保険料率について
事務局より資料 1-1～1-5 に基づき説明し、ご意見をいただいた。
2. 令和 6 年度支部事業計画及び支部保険者機能強化予算についての意見交換
事務局より資料 2 に基づき説明し、ご意見をいただいた。

（主な議論の概要）

1. 令和 6 年度保険料率について
事務局より資料 1～4 に基づき説明し、ご意見をいただいた。

【主な意見】

《学識経験者》

全国的な保険料率の増減傾向や、地方と都市部での保険料率の差などのおおまかな傾向等について教えてほしい。

《事務局》

中国・四国の過去の推移で見ると、徳島支部の保険料率は中国・四国では高い支部であり、このままでは上昇基調になると考えている。また、全国で見ると保険料率は西日本に高い支部が多い傾向にあると見ている。その中でも、徳島支部は令和 5 年度は全国で 8 番目に高い支部だった。

他支部の動向も含め、令和 6 年度の全国の都道府県単位保険料率に関しては、1 月以降開催予定の評議会でお示しする予定です。

《学識経験者》

5年収支見通しをする際、賃金上昇率を考慮しているが、賃金上昇率は名目と実質どちらで試算しているのか。名目で試算すると昨今の物価上昇により実質賃金は下がるので、物価上昇を取り込んでない名目賃金上昇率だけで計算するのではなく、物価という視点を取り込んだ試算をしてもらいたい。

また、運営委員会の医療経済の専門である委員から「賃金上昇率が高くなるに伴い、医療給付費の伸び率が高くなる前提で試算することは一定の合理性がある」との意見があったとのことだが、違和感がある。

医療費は、賃金スライドより物価にスライドする連動性が高いと思っており、物価上昇を試算に取り込むべきではないか。また、物価上昇により、実質所得が減るなかで、平均保険料率10%を維持したとしても、加入者にとっては負担感が増してしまうと考えられる。

これから先、我々の生活に関し、物価の上昇というのは、何年かはトレンドとして影響が大きいと思うので、保険料率を議論する場合は、考慮していただきたい。

《事務局》

賃金については名目で見通しをしているため、今回取りまとめをする評議会意見として、収支見通しをする際には、物価動向も考慮すべきとの意見を記載し、提出させていただきます。

《事務局》

評議会の意見として、「①5年収支見通し、後期高齢者支援金の負担増などを考慮すると、平均保険料率10%維持はやむを得ないとする。②保険料率の変更時期は、令和6年度4月納付分（3月分）からでよい」と報告してよろしいか。

〈評議員全員、異議なし〉

2. 令和6年度支部事業計画及び支部保険者機能強化予算についての意見交換

事務局より資料5～9に基づき説明し、ご意見をいただいた。

【主な意見】

《学識経験者》

今後の課題としている総合工事業とは具体的に何を指すのか。

《事務局》

土木建築、土木工事、舗装工事、建築工事など工事業が複合的に入るものになる。現在、徳島に総合工事業の事業所は1,500ほどあり、徳島にある15,000事業所の中で構成割合の

高い業種となる。また、医療・保健衛生業 900 事業所、社会保険・社会福祉・介護事業 700 事業所ほどあるので、ここを中心に組みんでいく必要があると考えている。

《学識経験者》

医療関係の数値がよくないのは徳島の特徴か。

《事務局》

徳島に限らず、全国的にもあまりよくない傾向がある。

《被保険者代表》

時間外受診について、不急の受診と思われるアレルギー性鼻炎で受診している方が多いことに驚いた。ちなみに、土曜日はすべて休日の扱いになるのか。

《事務局》

診療時間として標榜しているものは入らない。事業内容については検討を進めており、仕組みも含め、次回以降の評議会の説明したい。

《被保険者代表》

仕事をしていて夜間・早朝の受診が多いのではないかと推測するが、なぜ他県では少なく徳島では多いのか疑問に思う。また、加入者に対して、時間外受診等が多くなると、医療費が増加傾向となり、保険料の上昇につながるといったことをわかりやすく伝えていく必要がある。

《学識経験者》

時間外受診に対しては、どのような取り組みを行っているか。

《事務局》

現時点では、県の部局と話をするときや、関係機関との情報交換の中で、協会けんぽ加入者の時間外受診の現状を示し、他保険者はどのような傾向であるかを確認しているところである。徳島県は子供がいる世帯の共働き率が全国平均を上回っているため、子供が病気になったときは、会社が終わってから子どもを連れていくことも想定され、病状の緊急性とは別で、生活のスタイルも関連していると考えている。

また、#8000に電話をすると子供の健康相談ができるが、徳島県は利用率が高い。加入者もいろいろ組み合わせて動いているのだと思う。

また、徳島は小児科の数が全国トップクラスである。病院、診療所、医師数が多いので、通いやすさもあるのではないかと思います。

《事業主代表》

時間外受診について、この時間は時間外受診で加算となるといった表示があまりない。医療サイドに協力を依頼し「この時間は時間外となる」といったことを表示するだけでも患者の意識が変わると思う。

《学識経験者》

時間外受診については、医療体制が充実すると気軽に病院に行くことができ、医療費がかさむといった特徴があると個人的には思っているので、医療提供側の協力が必要になると思う。

《学識経験者》

県や医師会等との協議・連携を進めてほしい。

《事業主代表》

本部との連携事業について、肺がん医療費が高く、喫煙習慣のある者の割合が高い業種が、徳島では総合工事業に多いとあったが、国や県の入札の対象となる業種なので、国や県と連携して、例えば健康優良法人の認定を受けることで入札制度におけるインセンティブやメリットを付与するなど総合的な取り組みの中で改善を図ることも考えていく必要があるのではないかな。

《事務局》

他支部では、県が入札の際に、協会けんぽの健康宣言を評価項目としているところもあり、徳島支部でも検討しているところである。健康宣言は今後注力する事業なので、経済団体など様々な関係機関にご協力をいただきながら拡充していきたいと考えている。

《被保険者代表》

健康課題について、徳島は糖尿病や生活習慣病のリスクが高いとよく言われているが、資料では生活習慣要改善者の率は意外と低い。徳島支部が本部と連携して取り組んでいる保険者努力重点支援プロジェクトでは、医療費の削減をメインとして作成しているようだが、健康の維持や健康経営、健康寿命といった加入者の健康づくりにも使用できる資料になるとなると感じました。

《事務局》

保険者努力支援プロジェクトは都道府県単位の保険料率の格差が広がっている中、これを縮めるために何かできないかということで、医療費などのデータ分析を行い、健康課題を洗い出し、本部と連携して健康づくり事業を展開・効果検証をし、全国展開を検討していく

事業としてスタートしている。健康づくりを目標とする方向性は変わらないので、保健事業を積極的に進めていくつもりである。

《被保険者代表》

徳島では人工透析をされている方が他県と比べ多く、特に働き世代の方に多いと聞くことがあるが、協会けんぽの医療費情報の分析の中にその実績はないのか。人工透析をされている方の医療費は高額であり、他県より突出して多いということが分かれば、対策を講じてほしい。

《事務局》

各月の新規・累計件数などは把握しているが、深掘した分析については着手していない。人工透析は、1年間で400～500万の医療費がかかることはわかっているが、人工透析に至るまでの取組が必要であり、特定保健指導、重症化予防などを進めているところ。これは、徳島県全体の課題でもあるため、今後分析を進め、県他関係機関と協力して進めていきたいと考えている。

《学識経験者》

今まで議論してきた中で、保険料率を底上げしているのは医療費の伸びが高いということとでいいのか。

《事務局》

医療費の伸びが賃金の伸びを上回っている財政の赤字構造が主要因と考えている。

《学識経験者》

ジェネリック使用促進の事業は医療費適正化の中で出てくるのか。

《事務局》

ジェネリック使用割合については、徳島支部は全国最下位のままであり、医療費適正化の重点事業として考えている。次回の評議会において、事業計画の中で説明する予定。

《学識経験者》

健康に関する指標は良いのに、医療費が高い。受診の必要性を含めて、受療行動がわかる分析はないのか。

《事務局》

医療費を分解した場合、受診率、1日当り医療費、1件当り日数と3分解できる。徳島支部は、受診率が全国と比較して高い傾向にある。他の要素と組み合わせて受療行動の分析を

検討してみたい。

《学識経験者》

資料の健診結果では、生活習慣病のリスクが低いにも関わらず、その一方で、医療費で見ると糖尿病の医療費が全国比で高く血糖値の数値も悪い。リスクを持っている人が健診を受けていない可能性が高いのではないかと。

《事務局》

その可能性も考えている。今後も分析を進め、関係機関との連携を図り、事業を進めていきたい。

以上

次回評議会開催日程

- 日 程： 令和 6 年 1 月
- 場 所： 徳島支部会議室
- 議事内容予定： 未定